

令和5年度 第5回経営協議会議事要旨

日時 令和5年11月20日（月） 14時00分～15時15分
場所 本部棟2階大会議室
出席者 (学外委員) 潮谷委員、陣内委員、菅谷委員、中尾委員、水田委員、宮島委員、山口委員
(学内委員) 兒玉学長、渡委員、大島委員、山下委員、豊田委員、野口委員、石田委員
欠席者 (学外委員) 戸上委員
(学内委員) なし
陪席者 竹下理事、佐々木監事、小野教育学部長、吉住芸術地域デザイン学部長、榎澤経済学部長、野出医学部長、佐藤理工学部長、鈴木農学部長

議事に先立ち、学長より、令和5年10月1日付で新たに構成員となった大島委員、豊田委員、野口委員、水田委員の紹介があり、次いで、委員より挨拶があった。

【 審議事項 】

(1) 役職員宿舎の今後の計画について

環境施設部長から、建物の老朽化や入居率の低下等の理由から役職員宿舎については廃止の方針とする旨の説明があり、審議の結果、了承された。

【 報告事項 】

(1) 経営協議会学外委員からの意見への対応について

総務課長より、令和4年度及び令和3年度に経営協議会学外委員からいただいた大学経営に関する意見に対する本学の主な取組状況、今後の取組予定及び検証等について、報告があった。

(2) 地域ニーズに応える産学官金連携を通じたリカレント教育プラットフォームの構築（案）について

山下理事から、学びの機会と場所の提供、地域で活躍できる人材育成のため、地域ニーズに応える産学官金連携を通じたリカレント教育プラットフォームの構築（案）を進める旨の説明があった。

(3) 文部科学省 留学生就職促進教育プログラム認定制度申請結果について

三島副学長から、令和5年7月に留学生就職促進教育プログラム認定制度に申請したところ、令和5年10月16日付で条件付き認定の結果通知があった旨の説明があった。

【 意見交換 】

◎佐賀大学が向かうべき将来構想の議論

学長から、本件について、経営協議会委員の皆様から、広く御意見をいただきたい旨の発言があり、次いで、大島理事から、18歳人口の減少や教育研究体制の多様性と柔軟性の確保など、大学を取り巻く環境が大きく変化しており、第5期以降に向けた佐賀大学の向かうべき将来構想についての提案の説明があり、その後、意見交換が行われた。

主な意見は下記のとおり。

- 地元の企業と学生を適切にマッチングする必要がある。
- 県内企業への就職は佐賀の企業の役割であって、大学が県内企業への就職にこだわりすぎる必要はない。地域に貢献するのは大事だが、それに留まらず幅広い人を対象とする考えは持つべきである。
- 佐賀大学が持っている教育の力を使い、新しい学問分野を作っていく必要がある。
- 志願者が多いという根底には、佐賀大学がよい教育をしているということがある。数字には表れないが、このようなよい伝統を守ることが大事である。
- 佐賀大学での研究成果をイノベーションセンターでまとめて紹介している。高校生にもわかりやすく伝えてほしい。
- 正門辺りに行くと柵がなくなり非常に開放的で入りやすい雰囲気となった。そのようなところをさらに考えていただき、良い学生が来てもらえるようにしてもらいたい。

【 その他 】

豊田理事から、日経グローバル(日本経済新聞社発行)「大学の地域貢献度調査」で、本学が総合ランキング8位にランクインしたことについての報告があった。

以上